

ナブテスコ株式会社

2023年12月期第3四半期 決算説明会資料

2023年10月31日
取締役 常務執行役員
波部 敦

1

前年同期比 増収増益

連結売上高：2,436億円 (YoY+11%) 連結営業利益：129億円 (YoY+13%)

- 23年3Q累計売上高は過去最高
 - ・ 精密減速機は上期での需要が好調
 - ・ ACBは堅調な国内需要と為替効果で増収
- 23年3Q累計営業利益はTRS,ACB,MFRの増収に伴う増益によりYoY増益

2

修正計画比* 売上・営業利益ともにインライン

(修正計画への進捗率 売上高：74%、営業利益：68%)

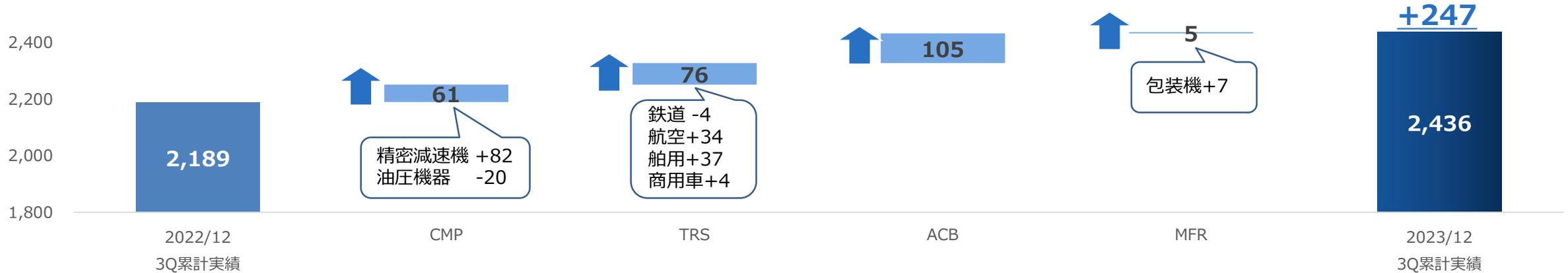
- 中国景気の悪化は想定よりも長期化の様相 (特にCMPへの影響大)
- 収益性改善アクションを実行中

*2023年7月31日公表の開示計画

売上高

億円

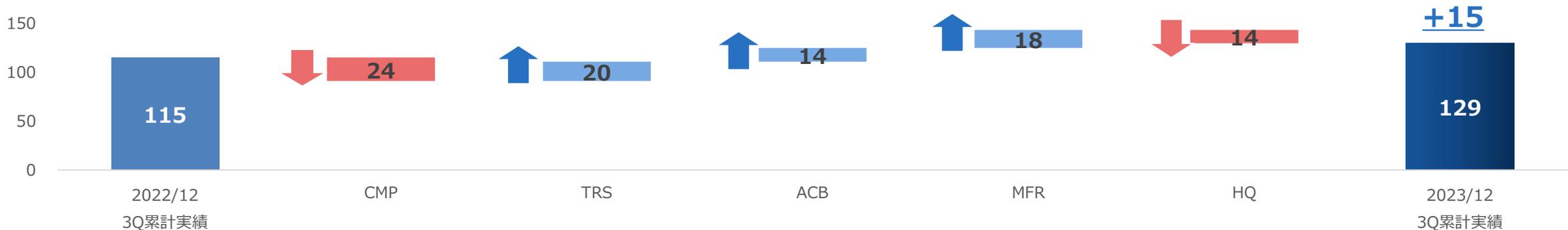
- CMP：精密減速機は上期で産業用ロボット向け需要が好調
- TRS：航空機器の市場回復や船用機器の好調な需要が継続
- ACB：堅調な国内市場と為替効果



営業利益

億円

- CMP：精密減速機での調達費や人件費の増加に加え、油圧機器での減収をうけ減益
- TRS/ACB：増収による増益
- MFR：3Qに子会社の売却益を計上し増益



CMP: Component Solution Segment TRS: Transport Solution Segment ACB: Accessibility Solution Segment MFR: Manufacturing Solution Segment HQ:本社費

- 23年2QにHDS(株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ)の株式売却が完了し、最終的な評価益確定済み。

(単位：億円)

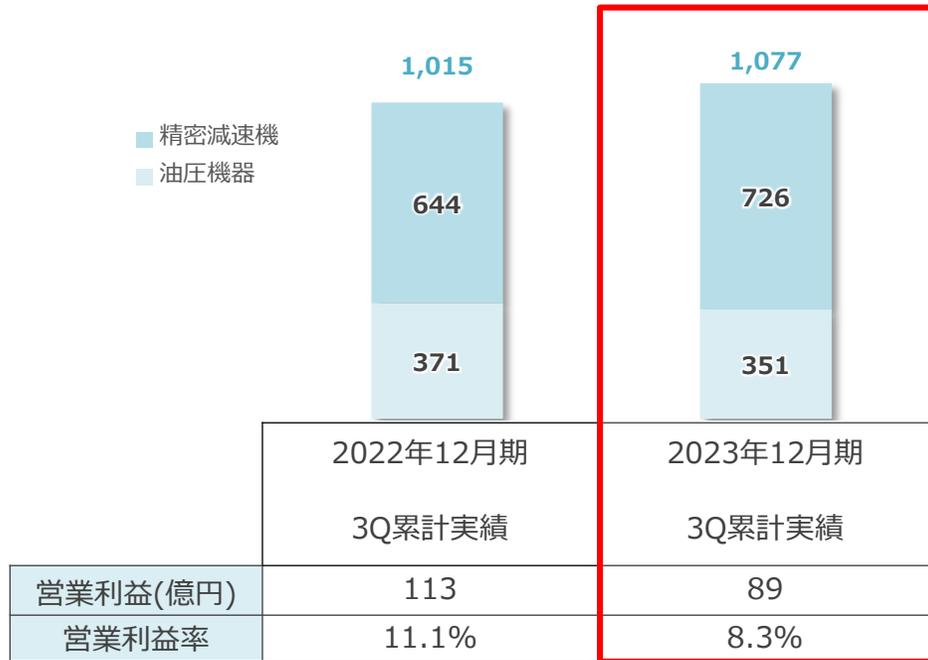
	2022/12	2023/12	差異
	3Q累計実績(A)	3Q累計実績(B)	(B-A)
売上高	2,189	2,436	247
営業利益	115	129	15
(営業利益率)	5.2%	5.3%	0.1pt
金融損益	32	47	15
(うちHDS評価)	14	35	20
持分法による投資利益	22	34	13
税引前利益	169	211	42
当期利益 ^{*1}	106	133	27
基本的な一株当たり当期利益	88.52	110.74	22.22

	2022/12	2023/12	差異
	通期実績(C)	修正計画(D) (7月31日)	(D-C)
	3,087	3,300	213
	181	190	9
	5.9%	5.8%	-0.1pt
	-51	44	95
	-56	35	91
	28	37	9
	158	270	112
	95	178	83
	78.87	148.30	69.43

*1 当期利益 = 親会社の所有者に帰属する当期利益

コンポーネントソリューションセグメント（CMP）

売上高(億円)



セグメント収益性

23年3Q:

精密減速機は23年の更なる調達費増加影響分の価格転嫁が遅れ減益
油圧機器は中国での景況感が悪化し減収により減益

4Q見通し:

精密減速機での価格転嫁や原価低減活動の推進による効果を見込む
油圧機器は季節性による増収をうけ増益を見込む

事業環境（3Q以降）

事業	市場環境		市場動向
精密減速機	ロボット向け	EV向け設備投資が減少に転じ、3Q以降景況感も悪化	
	FA向け	設備投資に対して慎重な見方が継続	
油圧機器	中国市場	需要停滞が継続 (23年1-9月 中国建機販売台数*1: YoY-26%)	
	中国市場以外	需要の先行き不透明 (23年1-8月 建機出荷金額*2 (国内+輸出) YoY +29%)	

*1出典：中国工程机械工业协会 *2出典：日本建設機械工業会

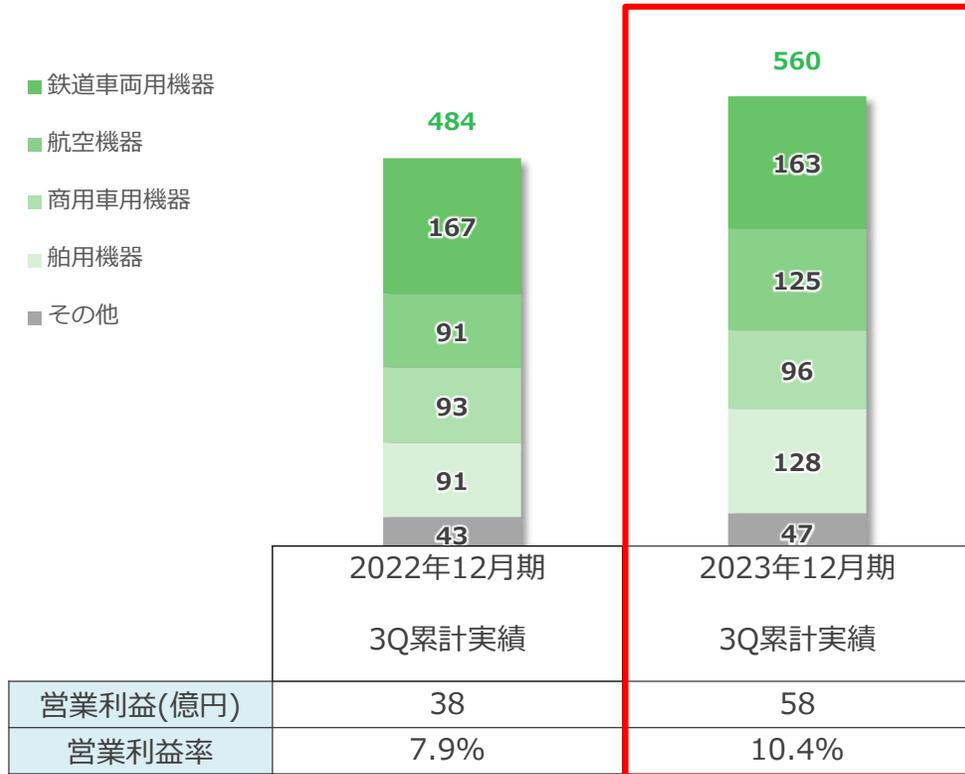
精密減速機の収益性改善アクション

アクション	施策
顧客への価格転嫁	<ul style="list-style-type: none"> 全顧客への価格転嫁適用 23年度交渉分の価格転嫁の発現は主に24年
浜松工場の稼働	<ul style="list-style-type: none"> 稼働開始を来期に延期 生産コスト低減を狙い工場間の最適な生産配分を進める
需要減少に対応した最適な人員配置	<ul style="list-style-type: none"> 事業間における機動的な人員再配置 派遣契約期間満了に合わせた人員の最適化
調達品の原価低減活動推進	<ul style="list-style-type: none"> Make/Buyの変更（ベアリング、熱処理等の内製化） 設計変更やサプライヤーの工程改善指導による生産性改善 新規サプライヤーの起用（浜松地区）

トランスポートソリューションセグメント（TRS）

売上高(億円)

- 鉄道車両用機器
- 航空機器
- 商用車用機器
- 船用機器
- その他



事業環境（3Q以降）

事業	市場環境	市場動向
鉄道車両用機器	23年度のMRO需要は好調なもの国内新車向け投資は低調 鉄道事業者の新車向け投資は24年以降に回復期待	☁️
航空機器	民間向け： 旅客需要増加を受け、航空機需要も回復 （民間航空機の23年8月の全世界のRPK*は前年比28%増）	☀️
	防衛向け： 防衛予算拡大に伴う需要拡大	
商用車用機器	電子部品不足の影響緩和で国内のトラック生産量は回復 輸出需要は景況感悪化で停滞	☁️
船用機器	新造船： 各国造船所が潤沢な手持ち工事量を確保	☀️
	MRO： 環境規制対応を含めた高需要が継続見込み	

*RPK：Revenue Passenger Kilometers 有償旅客キロ（出典：IATA）

セグメント収益性

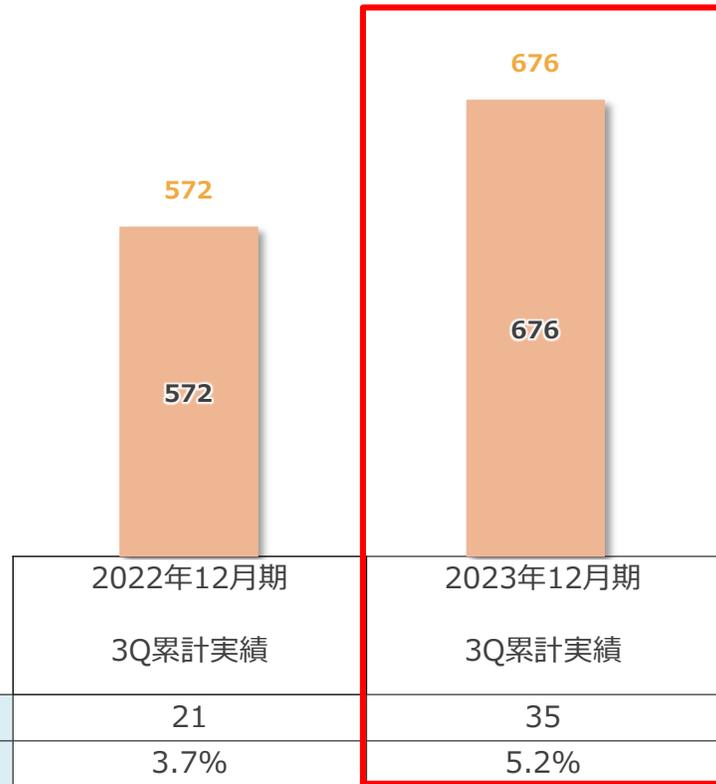
23年3Q：増収による増益に加え、MRO需要が好調に推移し増益

4Q見通し：需要好調を受け、継続して増収増益を見込む

アクセシビリティソリューションセグメント（ACB）

売上高(億円)

■ 自動ドア



事業環境（3Q以降）

事業	市場環境	市場動向
自動ドア	国内： 首都圏再開発向け建物用ドア及びMROの需要好調	
	欧米： 景況感悪化にともない先行き不透明	
PD (プラットホームドア)	国内： 24年以降バリアフリー法によるPD工事需要増加を見込む	
	海外： 一部案件でプロジェクトの進捗遅れ	

セグメント収益性

23年3Q：

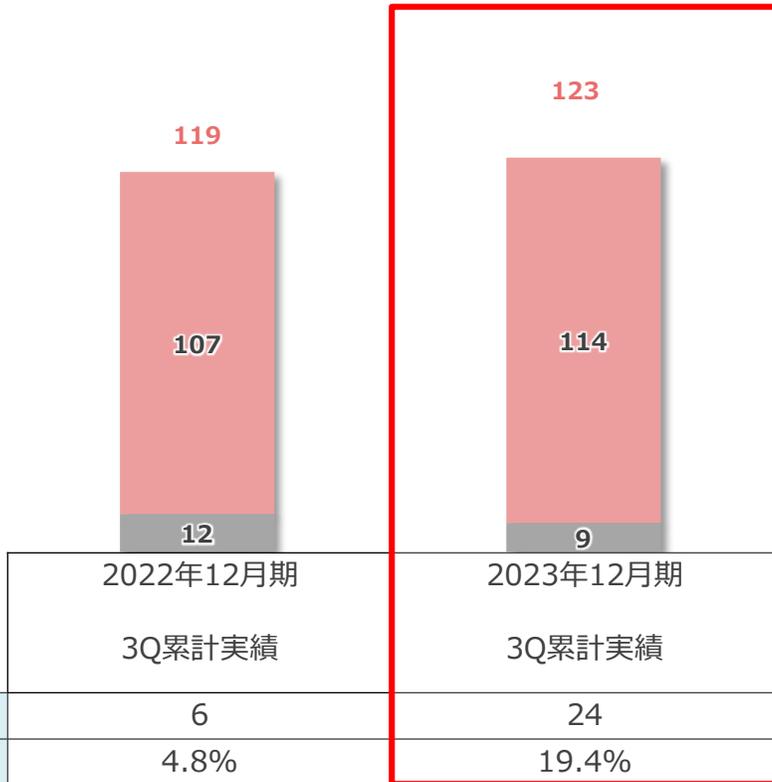
電子部品不足解消により建物用自動ドアのMROが増加したことに加え、前年に発生した海外PD案件での追加コストの回収もあり増益

4Q見通し：国内での需要堅調、更に海外での季節性を見込み増益

マニュファクチャリングソリューションセグメント（MFR）

売上高(億円)

■ 包装機
■ その他



■ 事業環境（3Q以降）

事業	市場環境	市場動向
包装機	日本の食品メーカーは値上げ等の影響により投資余力増加 海外では景況感悪化により投資意欲減退	

■ セグメント収益性

23年3Q：包装機では増収による増益に加え、製品構成差により増益
セグメントでは子会社(ティーエス プレシジョン)の売却益を
3Qに計上

4Q見通し：4Qでは前年同期並みの収益性を確保

■ M&Aや設備投資などの投資により現預金が減少し非流動資産が増加。HDS株式売却の処理は2Q中で完了。

(単位：億円)

	2022/12末 2022年12月31日	2023/12 3Q末 2023年9月30日	差異
資産	4,593	4,232	-361
(現預金等)	1,244	810	-434
(営業債権)	794	759	-35
(棚卸資産)	492	594	102
(売却目的で保有する資産)	340	0	-340
(非流動資産)	1,638	1,975	337
負債	1,961	1,475	-486
(社債及び借入金)	203	210	7
(流動負債のその他金融負債)	473	1	-472
(未払法人税等及び非流動繰延税金負債)	158	81	-77
資本	2,632	2,758	125
(非支配持分)	145	151	5
親会社所有者帰属持分^{*2}	2,487	2,607	120

- ・ Copas買収
- ・ HDS精算
- ・ Deep Sea買収
- ・ 法人税支払

- ・ HDS株式の減少

- ・ 精密減速機浜松工場
- ・ M&Aによる資産増加 (Copas & Deep Sea)

- ・ HDS売却にかかる預り金の減少

親会社所有者帰属持分比率：

54.1%

61.6%

*HDS:株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ社

事業部門	トピックス	内容
精密減速機	<p>浜松工場の竣工式を実施 (9月18日)</p> <p>中期経営計画で対処すべき課題</p> <p>環境負荷の低減とデジタル技術を活用したスマートなものづくりを実現</p>	<p>精密減速機の高い需要に対応するため、「ものづくりイノベーションとSDGs高評価を有する世界No.1のスマート工場」をコンセプトに、精密減速機の生産工場として3拠点目となる新工場を設立。自動化率を90%以上を目指し、供給数の多い機種を集めた少品種大量生産で高効率なものづくりを実現する。</p> <p>【工場概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生産能力 : 定時生産能力 年産120万台 (2030年時点) ◆ 稼働開始時期 : 2024年、日程未定 ◆ 投資額 : 約470億円 (2022年~2026年)
全社	<p>ナブテスコウェイの改定 (10月1日)</p> <p>中期経営計画で対処すべき課題</p> <p>全役員・従業員の“変える”意欲を高め、“挑戦”を楽しむ価値観の醸成</p>	<p>昨今のさまざまな外部・内部環境の変化を踏まえ、2012年に制定された『ナブテスコウェイ』の「企業理念」はそのままに、「ナブテスコの約束」と「行動指針」について、次世代へ引き継ぎたい要素を整理するとともに、挑戦する企業としての新たな視点を組み入れた。新しい『ナブテスコウェイ』は、「私たちが大切にすること」を6項目に集約し、世界中の多様な人材が理解・共感し、意欲的に行動できるものとした。</p>



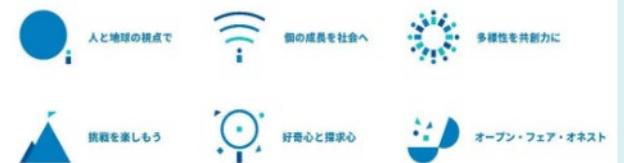
浜松工場 事務棟 外観

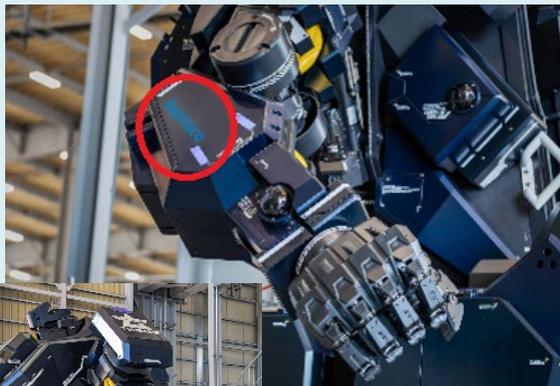
The Nabtesco Way

企業理念

ナブテスコは、独自のモーションコントロール技術で、移動・生活空間に安全・安心・快適を提供します。

私たちが大切にすること



事業部門	トピックス	内容
自動ドア	<p>自動ドアプラットフォーム「AD-LINK」の開発及びサービス開始 (8月31日)</p> <p>中期経営計画で対処すべき課題</p> <p>環境負荷の低減とデジタル技術を活用したスマートなものづくりを実現</p>	<p>AD-LINKは自動ドアの稼働情報を建物管理者様に提供することで、スマートかつ安全・安心な建物の運用・管理に貢献するサービス。</p> <p>今後は「AD-LINK」を活用し、自動ドアを通過する人流データを収集、解析することで、小売店舗のマーケティングやデジタルサイネージの広告効果検証にも活用予定。さらに、スマートビルディングシステムのネットワークと接続して自走型サービスロボットの通行をスムーズにする用途に展開する等新たな付加価値を創出する。</p>  <p>※AD-LINK活用の将来像です。 まだ提供を開始していないサービスも含まれます</p>
精密減速機	<p>ツバメインダストリ製作の搭乗操作型ロボット『アーカックス』に精密減速機を供給 (10月25日)</p> <p>中期経営計画で対処すべき課題</p> <p>「未来の“欲しい”」を実現する製品・サービスで新しい価値を創造</p>	<p>当社はツバメインダストリ社が開発する搭乗操作型ロボット『ARCHAX (アーカックス)』に対し精密減速機RV™を供給した。</p> <p>『アーカックス』は、人が乗り込んで操縦することができる大型の搭乗型ロボットで、腰旋回用や走行用をはじめ一機体あたり9つの精密減速機RV™が搭載され、スムーズな動作を実現する役割を果たす。</p> <p>10月28日～11月5日で開催のJAPAN MOBILITY SHOW 2023@東京ビッグサイトで展示中。</p>  <p>『アーカックス』右腕のナブテスコロゴ</p>  <p>搭乗操作型ロボット『アーカックス』</p>

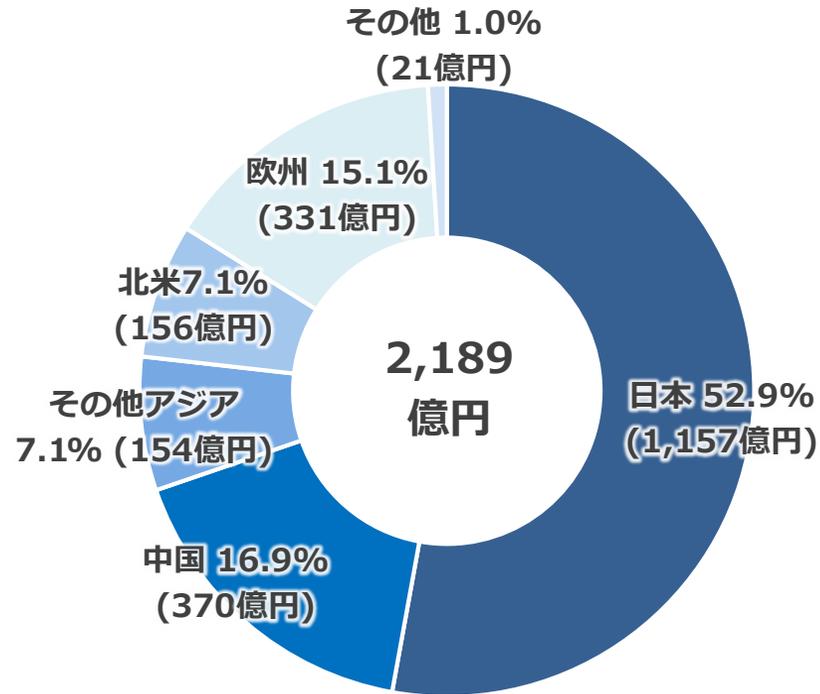
Appendix

- 設備投資は精密減速機の需要減少を受け、投資時期を見直し
- 業績の進捗を受け、投資内容も厳選

(単位：億円)	2022/12	2023/12	2023/12
	3Q累計実績 (A)	3Q累計実績 (B)	修正計画 2023/7/31 (C)
設備投資額	152	221	345
研究開発費	82	81	129
減価償却費	107	114	153

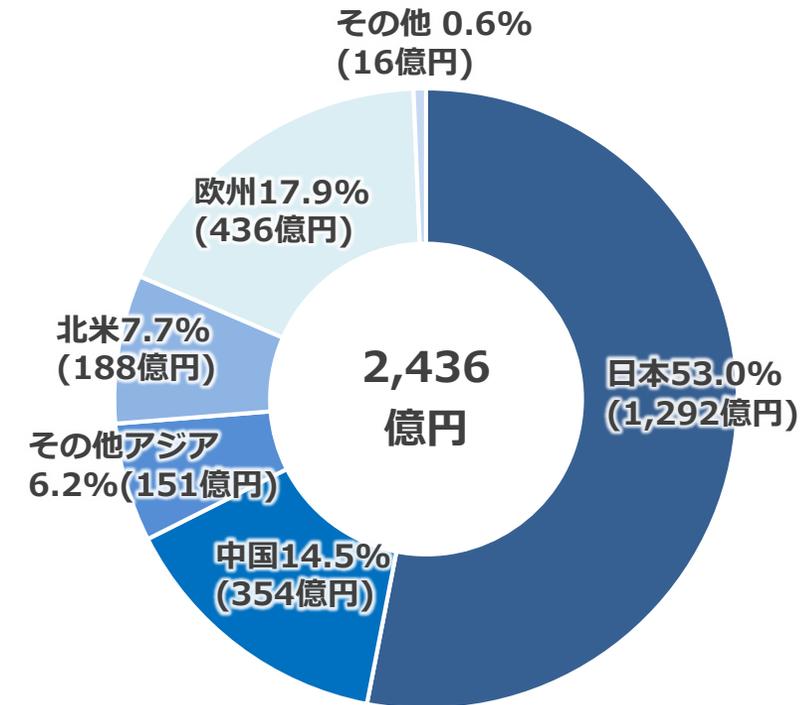
対前年 同期比 (B-A)	進捗率 (B/C)	2022/12 通期実績
69	64%	188
-1	63%	109
7	74%	145

2022/12 3Q累計実績



海外売上高	1,032億円
海外売上高比率	47.1%

2023/12 3Q累計実績



海外売上高	1,144億円
海外売上高比率	47.0%

■ 為替レート

(円)

	2022/12 3Q累計実績	2022/12 通期実績	2023/12 3Q累計実績	2023/12 通期修正計画
USD	129.46	131.12	139.55	125.00
RMB	19.45	19.46	19.74	18.50
EUR	136.62	136.43	151.20	140.00
CHF	135.89	136.81	154.49	145.00

■ 為替感応度（為替が1円変動したときの影響額）

(百万円)

	2023/12	
	3Q累計実績	
	売上	営業利益
USD	152	25
RMB	1,313	31
EUR	67	軽微
CHF	170	軽微

	2023/12	
	通期修正計画	
	売上	営業利益
	179	57
	1,531	162
	82	軽微
	246	軽微

2023/3Q 精密減速機 連結受注

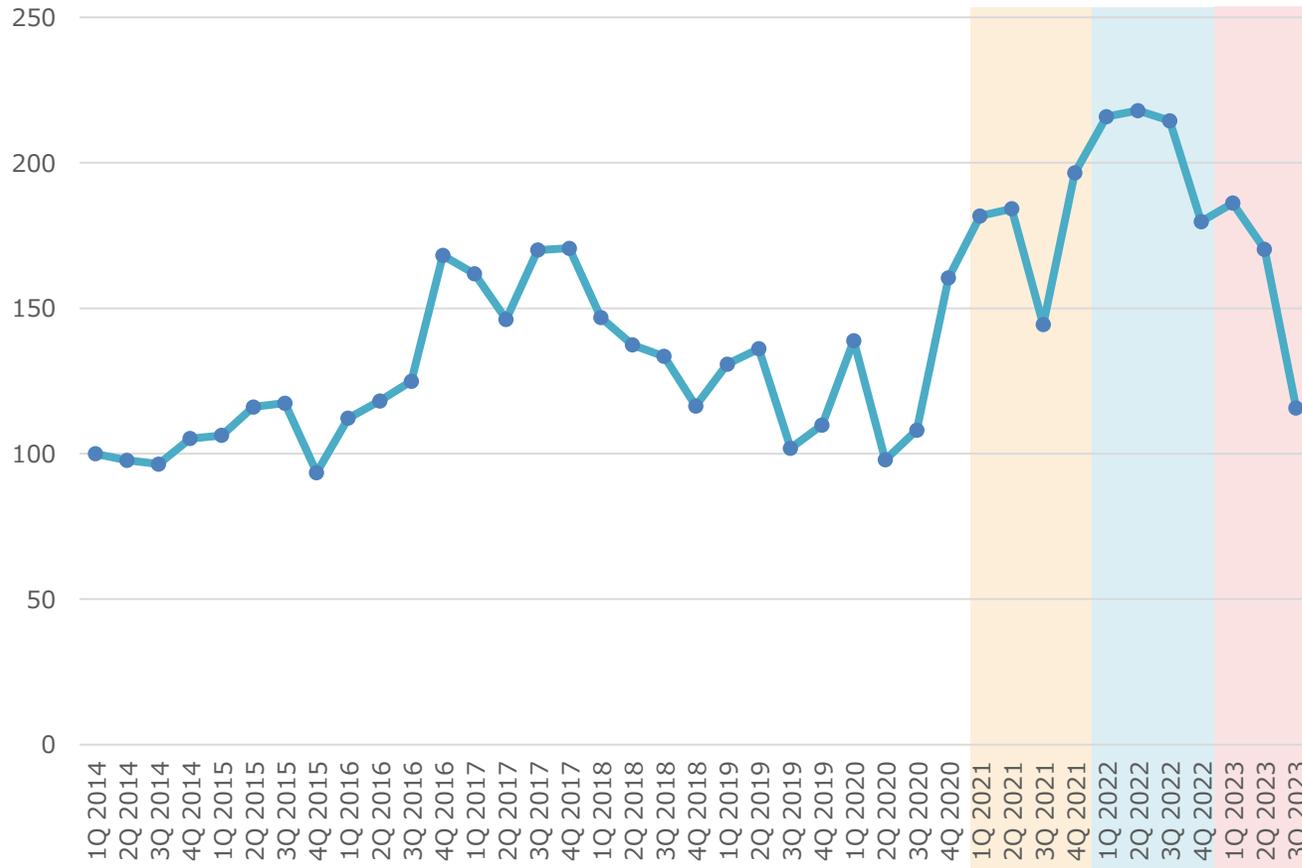
-YoY -46% QoQ-32%

-中国を中心とした景況感悪化にともないYoY/QoQともに受注が大幅減少

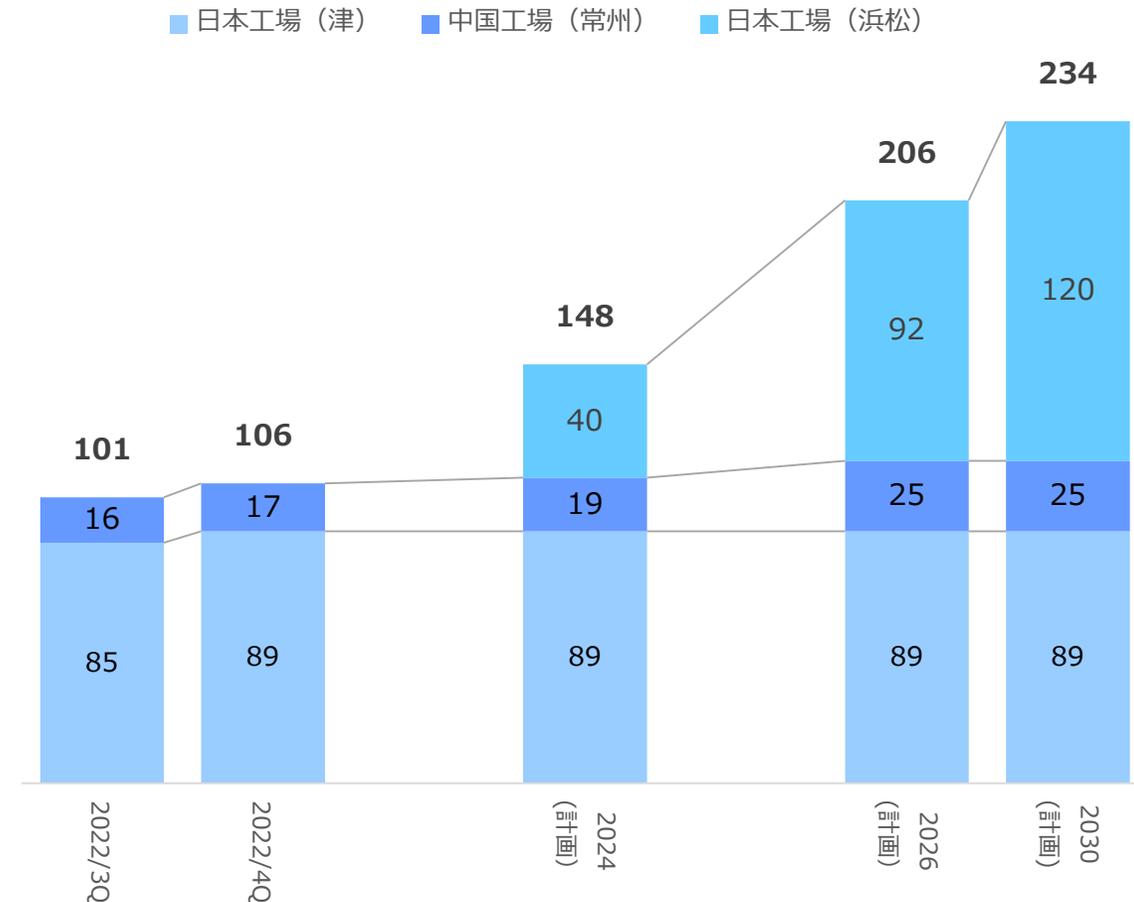
2023/3Q 精密減速機 稼働率

2023/3Q工場稼働率

- 日本工場(津) 年産89万台の定時生産能力に対し100%稼働
 - 中国工場(常州) 年産17万台の定時生産能力に対し55%稼働
- (年間：万台)



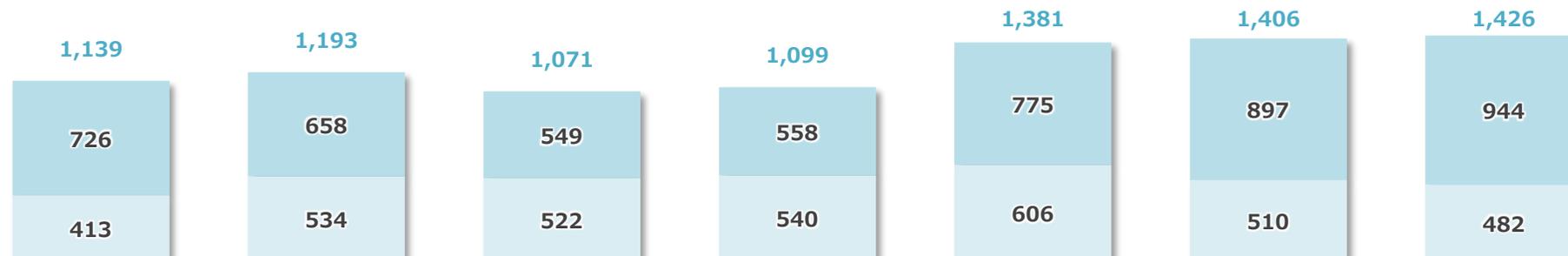
2014年1Q=100とした時の連結受注水準



事業別売上推移・事業紹介

売上高 (億円)

- 精密減速機
- 油圧機器

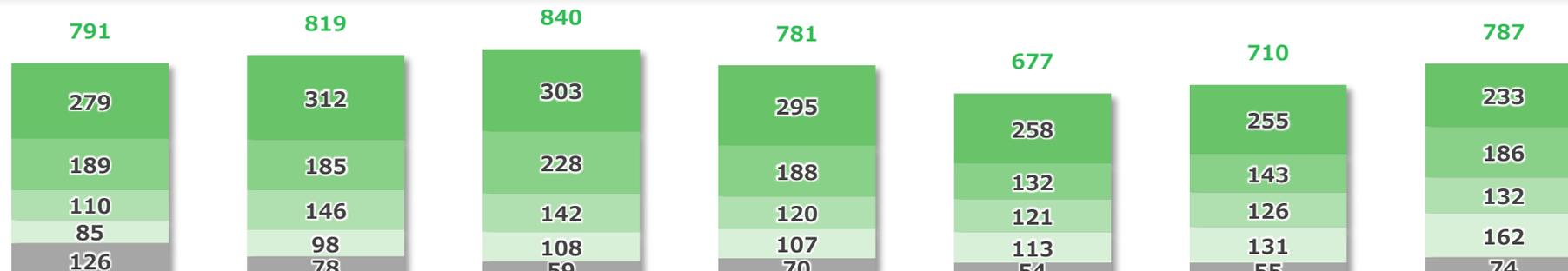


	2017年12月期 通期実績	2018年12月期 通期実績	2019年12月期 通期実績	2020年12月期 通期実績	2021年12月期 通期実績	2022年12月期 通期実績	2023年12月期 修正計画
営業利益(億円)	204	202	159	177	229	159	128
営業利益率	17.9%	16.9%	14.8%	16.1%	16.6%	11.3%	9.0%

トランスポートソリューションセグメント (TRS)

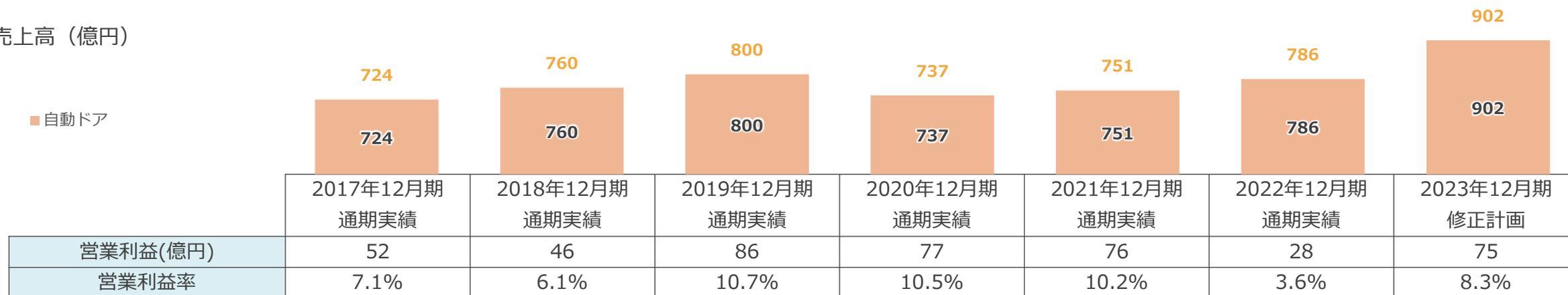
売上高 (億円)

- 鉄道車両用機器
- 航空機器
- 商用車用機器
- 船用機器
- その他



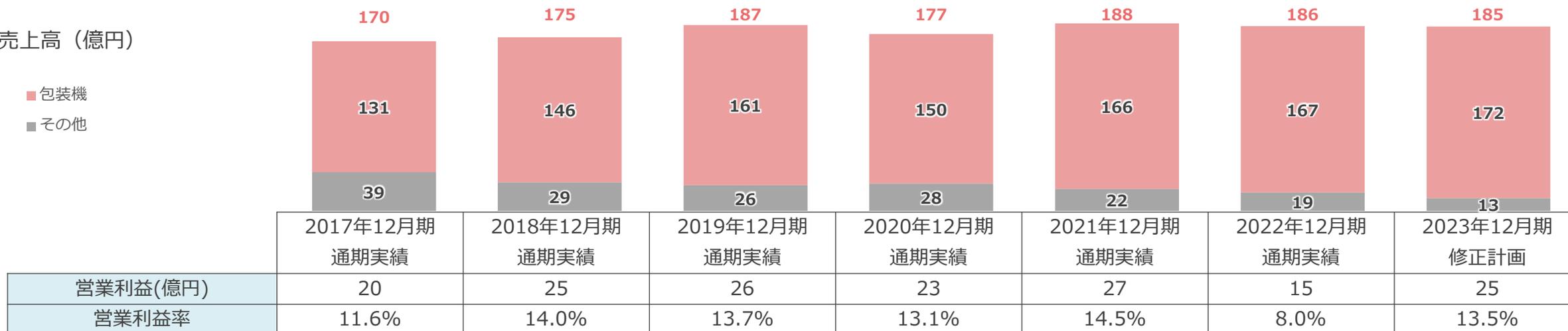
	2017年12月期 通期実績	2018年12月期 通期実績	2019年12月期 通期実績	2020年12月期 通期実績	2021年12月期 通期実績	2022年12月期 通期実績	2023年12月期 修正計画
営業利益(億円)	84	20	58	33	56	67	73
営業利益率	10.6%	2.5%	6.9%	4.3%	8.3%	9.5%	9.3%

売上高 (億円)



マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR)

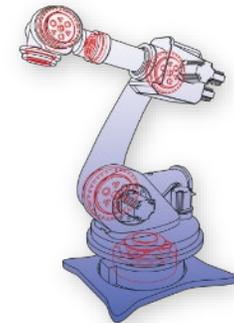
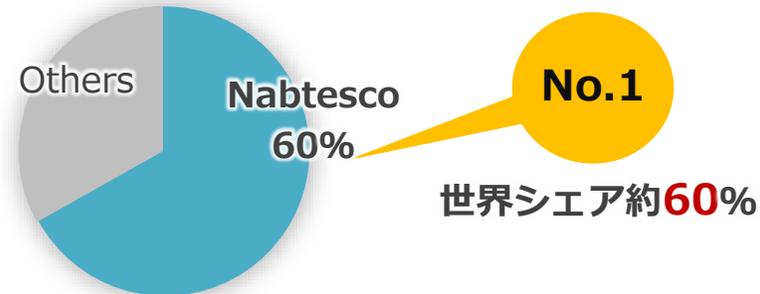
売上高 (億円)



注：シェアは当社推計

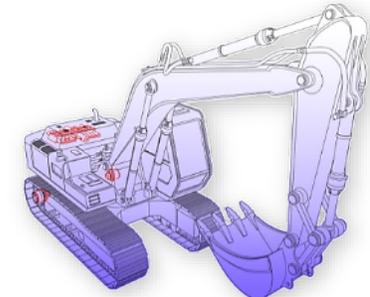
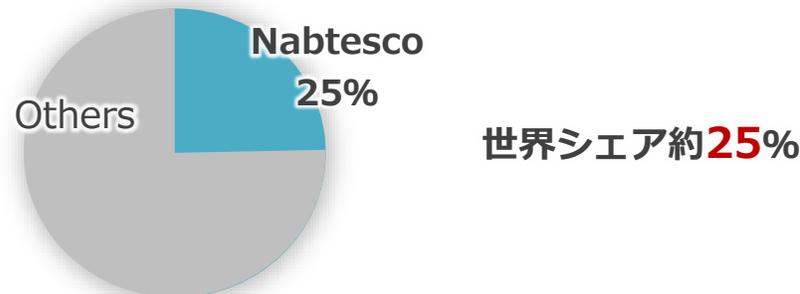
精密減速機

■ 中大型産業用ロボットの関節用途



油圧機器

■ 油圧ショベル用走行ユニット



主要顧客 (敬称略)

■ 精密減速機

産業用ロボット：ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)

工作機械：ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

■ 油圧機器

走行ユニット：コマツ、住友建機、コベルコ建機、Sany (中)、XCMG (中)、Liu Gong (中)

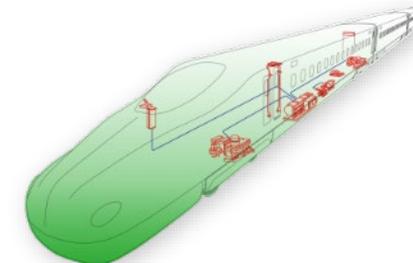
注：シェアは当社推計

鉄道車両用機器

■ 鉄道車両用ブレーキシステム

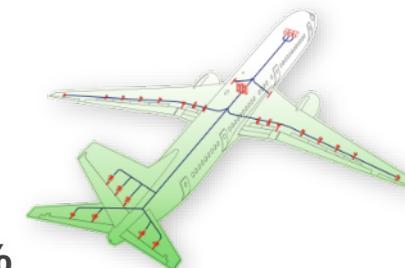


■ 鉄道車両用ドア開閉装置



航空機器

■ フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)



主要顧客 (敬称略)

■ 鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、日立製作所、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

■ 航空機器

Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社

注：シェアは当社推計

商用車用機器

■ 商用車用ウェッジチャンバー

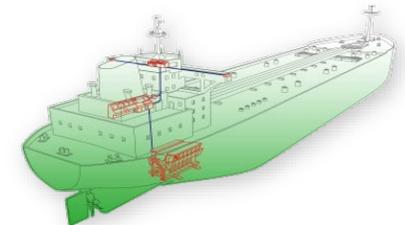


■ 商用車用エアド라이어



船用機器

■ 船用エンジン遠隔制御システム



主要顧客 (敬称略)

■ 商用車用機器

いすゞ自動車、日野自動車、三菱ふそうトラック・バス、UDトラックス

■ 船用機器

川崎重工業、(株) ジャパンエンジンコーポレーション、(株) マキタ、日立造船(株)、三井E&Sマシナリー、Hyundai Heavy Industries (韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、HSD Engine Co., Ltd.(韓)、MAN Diesel (デンマーク)

注：シェアは当社推計

自動ドア

■自動ドア開閉装置



■プラットホームスクリーンドア



主要顧客 (敬称略)

各種建物用自動ドア：大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関
プラットホームドア：JR・民鉄各社、各国都市交通向け

マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR) 主要製品

包装機

■レトルト食品用充填包装機



主要顧客 (敬称略)

■包装機

DM三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

うごかす、とめる。

Nabtesco

